

## 原発の危険は終わらない

### この国は福島原発事故から何を学んだのか！

丹治 杉江

#### 能登地震と志賀原発

元日に能登半島に最大震度7の地震が発生。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げると同時に、1日も早いインフラの復旧が進むことを願ってやみません。私も3・11福島原発事故時には原発から34キロのいわき市に居住していました。繰り返し大きな揺れ、断水や家屋一部損壊、固い乾パンと冷たい長期保存水を飲み、トイレは庭に穴を掘り用を足しました。そこへ原発水素爆発による放射能が降ってきたのです。いわき市は15日には23・7 $\mu$ Sv/hが計測され、あまりの恐怖に車に身の回りのものだけ詰めて、1か月間は会津地方にその後12年群馬県で暮らしました。どこからの支援もない避難でした。

能登被災地では今も命をつなぐための懸命の取り組みが続いています。福島の教訓が全く生かされていない事態に忸怩たる

思いです。救済に一刻の猶予もない中、横須賀中央駅で小泉進次郎議員が「能登半島地震被災者救援募金箱」を掲げ、道行く人々にこやかに握手などしている様子が報道されました。この緊急事態の中で与党の元環境大臣がやるべき事は子どものお財布から義援金をもらう事ではなく、いかに国が全力で被災者の命を救う対策をとるか、ではないでしょうか。現に熊本地震と比べ自衛隊の活動が遅く、小規模になつている事、避難所の備蓄想定も不十分であったと報じられています。「早く何とかしないとみんな死んじゃう！」とテレビ画面にいら立ちをぶつけるしかない自分が情けないです。

さらに、志賀原発。強い揺れと3メートルの津波に襲われ、変圧器から約2万リットルの油漏れ、外部電源の一部から受電ができなくなるなどのトラブルに見舞われ決して安全な状況ではないのです。さらに、福井県の老朽高浜原発で配管から蒸気漏れ

や、冷却水漏洩など不具合が相次いで見つかっています。勿論、再稼働準備が進められている新潟の柏崎刈羽原発も心配です。今回の地震により家屋の倒壊や道路の寸断、モニタリングポストが一部測定不能になりました。原発事故時に身を守るには、

正確な情報確保、遠くに逃げるか屋内退避で放射能を遮断する事ですが、地震被災地では不可能なことがまた明らかになりました。現在、再稼働の要件、自治体が策定する「避難計画」の前提となる原子力災害対策指針の非現実性がつきつけられた形となりました。まずは、志賀原発が停止中で本当に良かった、と思いますが、しかし、たとえ停止中であつてもそこに「原発施設」がある限り重大事故の危険があるという事を改めて思い知らされました。原子力防災計画は、住民を被ばくから守る最後の壁ともいえるべきものであり、原子力災害対策指針はその土台となるものです。これらが現実には機能しないのが明らかである以上、原発を動かすべきではありません。

#### 福島の今

原発事故から12年。日本史上最大の放射

能公害事件は無辜の民の人生を狂わせ、戦後最大の国内難民を生み、今も被災地域、多くの被災者に深い苦悩と分断をもたらしている。人々には不安や苦しみを回避させるため「忘れる」という素晴らしい能力が備わっていますが、その事を利用したのは被災者ではなく権力側。『福島復興』電力不足や電気代の高騰解消、地球温暖化対策のために、原発再稼働という原子力ムラの台本が日本社会で信じられないほど上手く演出され、多くの国民はすっかり騙されつつあることに愕然とします。そしてまた原発「新安全神話」が日本中を席捲し始めました。

### 原発事故損害賠償訴訟10年闘って

事故後、4つの事故調査委員会が立ち上がり、福島原発事故は「事前の事故の防止対策や事故後の被害拡大防止策について問題点が複合的に存在した」国会事故調は「今回の事故は明らかに〈人災〉である」としています。にもかかわらず、過酷な避難生活や放射能と隣り合わせの生活を余儀なくしている在住者は加害当事者から「福島で良かった」「最後は金目でしょ」などの暴言を浴びせられて切り捨てられています。私は避難者群馬訴訟原告として地裁・高裁・最高裁で筆舌に尽くしがたい避難の苦難

と、勝手に線引きされ切り捨てられた「自主避難」(私は自力避難と言っている)の正当性を証言しました。国側は高裁控訴審で自主的避難者に対し「……避難継続の相当性を肯定して損害発生を認めることは居住する住民の心情を害し、ひいては我が国の国土に対する不当な評価となる」から「容認できない」と主張しました。避難の必要有無の判断は問答無用で、国に従えといわんばかりの暴論です。そして世界中を震撼させた原発事故の責任について最高裁においても2022年6月17日『国の責任なし』と判決を下しました。勝利の「旗出し」を準備していた私は悔しくて泣き崩れました。あの時の怒り、虚しさ、理不尽さは生涯忘れません。

### 福島事故は終わらない

政府・財界は福島浜通り復興政策として惨事便乗型のイノベーションコースト(国際研究都市)構想を打ち出しました。廃炉のための技術や人材育成を隠れ蓑に、ロボットやドローン、水素、情報、航空宇宙開発などハイテク産業の集積、育成の巨大プロジェクトです。

ほんの12年前まで、穏やかにつつましく暮らしていた山里が突然原発事故で汚染され、人々は逃げまどい今だに国内難民状態。

その地を使って、産学軍研究施設の建設など、あらたな「復興災害」です。被災者の「ふるさと返せ! 生業返せ!」の声は戦争や金儲けのためのハイテク機器の金属音にかき消されようとしています。

岸田首相はGX(グリーン・トランスフォーメーション)実行会議で、原発の再稼働、運転期間の延長、革新炉の開発・建設などの政策を突然決定。どんなに革新炉であっても使用済み燃料(核のゴミ)を生み出す点は全く同じ。ロシアのウクライナ侵略で原発は有事には自国に向けられた核基地になるのです。さらに腹立たしいのは、国民を欺くため膨大な税金を投入し「安全性を保障した汚染水海洋放出」などTVコマースャルをたれ流し、「復興予算」まで軍事費へ流用することは国民に対する裏切り行為です。そもそも福島原発事故現場は危機的状況のままなのです。

- ① 溶け落ちたデブリ全量推定880トン。取り出せても最終処分の見通しはない。
- ② 原子炉格納容器蓋付着セシウムは3.11の23倍以上の量。地震・台風などで老化が激しい建屋がどこまで持ちこたえるか? 拡散すれば、関東全域は避難地域となる量。
- ③ 廃炉に伴い発生する「原子炉建屋構造物や制御棒」などL1放射性廃棄物総量28万トン!、規制委員会規制基準ではすべて地下



福島県楢葉町にある伝言館\*

70メートルより深く埋めて3〜400年は電力会社管理、後10万年は隔離保管。不可能！。

④汚染水（アルプス処理汚染水）海洋投棄問題。現在129万トン余が10000基のタンクに。さらに今も増え続けているのです。

経産省のALPS小委員会報告は、「トリチウムの影響が出る被ばく形態は内部被ばく」であることを認めました。内部被ばくは食物連鎖を通して生物に濃縮されてい

くのです。いくら希釈しても、投棄総量は同じ。ましてや保管タンクの7割以上にストロンチウムや炭素14など基準値を上回る放射性物質があることが発覚。東電は「処理途上水」と言い換え、再処理する、風評対策すると言いますが、信用できません。大型タンクでの長期保管やモルタル固化、遮水壁の新たな建設など別の対応策を早急に検討すべきです。

### 福島第一原発で作業員が汚染廃液を浴び、被ばくする重大事故発生！

10月25日に、汚染水処理の基幹となる「多核種除去設備（ALPS）」で作業員が洗浄廃液を大量に浴びた被ばく事故が起きました。現場にいないではない職長資格を持つ班長が下請け3社のうち1社で不在。東芝はルール違反と認識しながら、作業の実施を優先させていたことが判明しました。

汚染水関連の作業では、2013年に作業員が誤った配管を外して11トンが漏れ、不十分な装備で止水作業をするなどして6人が被ばく。15年には命綱をつけていなかった作業員が保管タンク上部から転落し、死亡。

今回の被害の実態不明のまま、3回目の海洋放出が8日後に始まりました。東電が強調する「透明性高く情報発信する」「幾

避難指示が解除された区域での小中学校の通学者数の推移（2023年6月）

市町村名	2010年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年（事故前比）	備考
田村市・都路	228人	110人	91人	74人	72人	65人	58人（25.4%）	
南相馬市・小高	1,087人	126人	112人	113人	110人	90人	119人（10.9%）	
川俣町・山木屋	99人	15人	3人	3人	7人	8人	5人（5.0%）	2019年より小学校が休校となっている
広野町	541人	219人	240人	222人	253人	264人	265人（50.0%）	
楢葉町	686人	107人	109人	139人	146人	171人	180人（26.2%）	
富岡町	1,487人	23人	26人	40人	48人	56人	67人（4.5%）	
川内村	166人	65人	65人	71人	77人	70人	64人（38.6%）	
浪江町	1,773人	7人	16人	26人	31人	39人	62人（3.5%）	
葛尾村	112人	18人	14人	13人	12人	15人	14人（12.5%）	
飯舘村	531人	79人	61人	65人	59人	68人	82人（15.4%）	小中一貫校
双葉町	551人						0人	小中学校ともまだ戻っていない
大熊町	1,127人						20人（1.8%）	小中一貫校
合計	8,388人	769人	737人	766人	815人	846人	936人（11.2%）	

（伊東氏聞き取り調査による）

重にも安全確保」姿勢は全く感じられませんが、人命軽視の汚染水投棄は今すぐ中止すべきではないでしょうか。

### 汚染水海洋放出差止訴訟が始まりました

「ALPS処理汚染水海洋放出差止訴訟」を福島地裁に提起。原告は全国の漁業関係者、市民、避難者など363人です。私が原告団事務局長を務め、国と東電、いえ「巨大原子力マフィア」を相手に人権と環境を守る闘いを始めます。一緒に裁判を闘って下さる支援者を募集中。裁判は国内外からの専門家証人の費用など大変お金がかかります。今は原告も弁護士も全部自分たちの持ち出しでスタートしましたが、長い闘いです。ぜひ皆様のご支援を宜しく願います。

### 最後に

私は日本史上最大最悪の原発苛酷事故の歴史の証言者となりました。過去の事ではないのです。生きとし生けるものの生存を脅かす「核の火種」は茫茫と

- HP : <https://alps-sashitome.blogspot.com/>
- メール : [sashitome.shien@anppa.org](mailto:sashitome.shien@anppa.org)
- 支援する会 募金口座
- みずほ銀行 いわき支店 普通預金口座
- 口座番号 3045465
- 口座名「原発汚染水の海洋放出差止めの裁判を支援する会会計 吉田力」

燃え続けています。原子力ムラは憲法の番人、最高裁まで飲み込んでしまいました。福島事故が終わった事にされそうなの「究極の悲劇は、悪人の圧政や残酷さではなく、それに対する善人の沈黙である。われわれは敵の言葉ではなく、友人の沈黙を覚えていくものなのだ。問題に対して、沈黙を決め込むようになったとき、われわれの命は終わりに向かい始める」というキング牧師の言葉が胸に刺さります。

## これ以上、子どもを被ばくさせるな

「子ども脱被ばく裁判」は最高裁へ

水戸 喜代子

### 子ども脱被ばく裁判に至る経過

事故が起きた時、原発事故に関心を持ち続けていた人たちの頭にまず浮かんだのが25年前のチェルノブイリ原発事故の教訓だった。チェルノブイリでは白血病はじめ、数百人規模で子どもの甲状腺がんが発生した事実は運動内部でよく知られていた。事故発生とほぼ同時に、北海道、京都、岡山など全国各地で市民が自主的に「保養所」を立ち上げ、「原発事故が起きたら、まずは子どもを1メートルでも遠くに避難

どうか福島原発事故被害はより複雑に、深刻に続いている事を忘れないでください。榎葉町宝鏡寺境内フクシマ「伝言館」ご来館お待ちしております。

(たんじ・すぎえ)ALPS処理汚染水放出差止訴訟原告事務局長・ヒロシマナガサキビキニフクシマ「伝言館」事務局長)

\*編集部注・福島県楢町にある伝言館 双葉町に国策で作られた「伝承館」に対して、市民の視点で原発事故を伝え続けている。

させること」というセオリーどおりに、きれいな空気と食べ物を用意して、福島の子を温かく迎え入れた。これもよし、ボランティアでなくて国が率先して行なっていたら、300人を超える甲状腺がんで苦しむ子は出なかったかもしれない。チェルノブイリの悲劇を原発事故だけではなく、人命救助という面でも、国は生かさなかつた。いやそれどころか、国は、IAEAに導かれて、原発事故という大惨事をいかに経済的に安上がりになり切るか彼らなりのやり方でチェルノブイリからたっぷり学んでいた